

## 2024年度新規【東京会場】

# 登録ALC基幹技能者講習 修了試験 問題

1. 試験時間:60分
2. 問題数:25問(四者択一式:「最も不適當」なものを選ぶ)
3. 注意事項
  - (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
  - (2) 受講番号と氏名を解答用紙の所定の欄に正しく記入してください。記入がない場合や正しくない場合は不合格となることがあります。
  - (3) 本冊子のページ数(問題記載ページ:1～7ページ)と試験問題数(25問)を確認してください。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には、黙って手を挙げてください。
  - (4) 机の上に置くことができるものは、「受講票」、「黒の鉛筆又はシャープペンシル」、「消しゴム」、「時計(携帯電話など、他の機能がないもの)」、「色鉛筆・マーカーなどの印を付けるための筆記用具」です。
  - (5) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能、その他これと同等の機能を有するものは、使用できません。
  - (6) 解答の方法は、次のとおりです。
    - ① 正解(最も不適當なもの)を選択肢1～4の中から1つだけ選び、黒の鉛筆又はシャープペンシルで、解答用紙の解答欄に、その番号を記入してください。
    - ② 解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消した後、新しい番号を記入してください。
  - (7) 試験中、質問などがあるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方などに関する質問にはお答えできません。
  - (8) 試験開始30分以降は、退室することができます。退室時は黙って手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
  - (9) 試験終了の合図があつたら、筆記用具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
  - (10)この問題冊子は、持ち帰ることができます。なお、全会場の問題は全ての講習が終了した後に、正解と共にALC協会のウェブサイトで一定期間公開します。
  - (11)試験開始の合図で始めます。

**問題 1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 登録基幹技能者は、芸術家と同様の想像力と直観力を備えている。
- 2 登録基幹技能者は、現場を効率的にまとめることができる。
- 3 登録基幹技能者は、生産グループ内のチーム等の一般技能者に対して、技能者の適切な配置を行う。
- 4 登録基幹技能者は、元請の施工管理技術者に対して、施工方法等の提案・調整を行う。

**問題 2 建設キャリアアップシステムに関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 レベル 4 は、高度なマテリアル能力を有する技能者であり、カードの色はプラチナである。
- 2 レベル 3 は、職長であり、カードの色はシルバーである。
- 3 レベル 2 は、中堅技能者であり、カードの色はブルーである。
- 4 レベル 1 は、初級技能者であり、カードの色はホワイトである。

**問題 3 登録基幹技能者の活用に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 国土交通省における総合評価落札方式においては、すべての地方整備局等で評価・活用されている。
- 2 登録基幹技能者は、公共工事における総合評価落札方式においても評価・活用されている。
- 3 建設生産現場の生産性の低下・建設生産物の減少につながる。
- 4 登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大が図られる。

**問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 目標通りに工事を完成させることができる。
- 2 コンクリート施工に係る高度な技能を有し、コンクリートの品質にかかる作業工程を通じて的確に事務管理を行うことができる。
- 3 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、KY 活動、新規入場時の受入教育、作業改善等の一連の安全管理活動ができる。
- 4 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行うとともに、不測の事態の発生に対応する修正工程の立案ができる。

問題 5 登録 ALC 基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 ALC パネル施工業種のリーダーである。
- 2 他業種に ALC パネル工事の施工の指示をすることができる。
- 3 部下を指揮・指導できる。
- 4 熟達した直接的施工能力を有する。

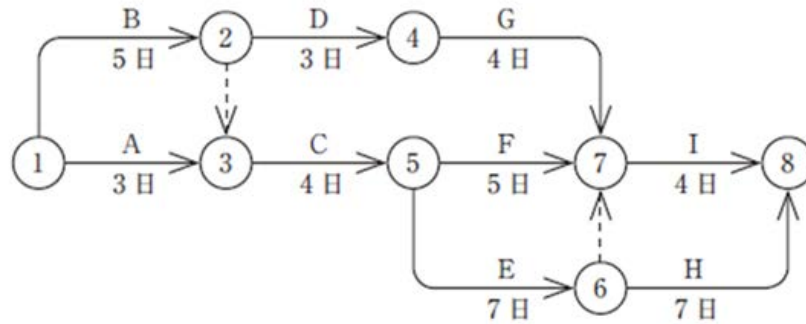
問題 6 登録基幹技能者としての法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 自分たちの都合を優先し、他職種の登録基幹技能者が決めた手順で確実に施工する。
- 2 建設工事は社会的な影響が大きな仕事であることを認識し、登録基幹技能者として、プライドとプロ意識を持ち仕事に取り組むことが大切である。
- 3 コンプライアンスは、企業や組織の極めて重要な社会的責任である。
- 4 登録基幹技能者は、誰よりも高い倫理観と法令遵守の姿勢が求められる。

問題 7 登録基幹技能者が担うべき指導・教育、自己啓発に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 OJT は、仕事そのものであるという認識を持つことが大切である。
- 2 OJT は、上司の能力レベルから部下の目標を定める。
- 3 OJT の目標の設定は、日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること。
- 4 OJT の目標の設定は、部下が意欲を持って取り組めるものであること。

問題 8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



- 1 この工程表のクリティカルパスは、B→C→E→Hである。
- 2 この工程表の工期は、23日である。
- 3 D作業のトータルフロート(余裕日数)は、8である。
- 4 D作業の最遅終了日(LFT)は、15日である。

問題 9 新しい技術に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 BIMは、建築物やインフラストラクチャーなどの不動産資産のライフサイクル全般にわたる意思決定を改善する戦略上重要な役割を果たす。
- 2 BIMとは、建設時や施設の資産管理におけるデジタル形式であり、発注者とプロジェクト関係者にとっての成果を向上させるために新技術群とデジタル化された情報、プロジェクトのプロセスの改善と資産管理を同時にもたらすものである。
- 3 BIMは、単なるソフトウェア技術の範囲を超えて、建築プロジェクト全体の生産性向上のための運動全体を指す用語として用いられるようになってきている。
- 4 BIMは、改修工事のプロジェクトに適用され、CADは新築工事のプロジェクトに活用されるものである。

問題 10 PDCA サイクルに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 第1段階では、安全の確保は当然のこととして、品質、工程、原価の面で優れた計画を練り上げ、計画段階でチェックのタイミングや品質基準値等の判断基準を適切に設定しておくことが重要になる。
- 2 第2段階では、計画に基づき適切に施工するとともに、実際の施工状態を容易に判断できるようなデータを正確に調査・記録しておくことが重要になる。
- 3 第3段階では、計画通りに実施されているか、調査・記録したデータを検証するだけでよい。
- 4 第4段階では、新たに計画を立てるのではなく、適切な処理を施すための方策について幅広く検討することであり、最も適切な処置方法を見つけ出すことが重要となる。

**問題 11 作業手順書の効果に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 作業員に、作業方法を早く、正しく知ってもらうのに役立つ。
- 2 作業の現状を把握するのに役立つ。
- 3 作業指示を適切に行うことができる。
- 4 作業員の配置がやりやすくなるが、作業のムリ・ムラ・ムダが省けない。

**問題 12 会社経営と工事現場の原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 請負契約時に、ある程度精度のある見積単価を算出して、利益予測を行う。
- 2 見積原価の管理段階では、請負条件を明確にし、不明な点は質疑する。
- 3 請負契約後、現場条件に合わせた施工計画を詳細に検討し、実行予算を作成する。
- 4 実行予算を枠組みとして発注し、資機材や労務を管理するが、実行予算と実績を比較することはできない。

**問題 13 専門工事業者の原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 見積りの作成では、現場条件、施工範囲等を検討し、条件に合わせた見積りを行うことが大切である。
- 2 見積書の経費では、直接工事費だけでなく、社会保険料等の企業負担分をはじめとした会社経費も確実に確保しなければならない。
- 3 見積りでは、材料費、労務費、外注費やその他諸経費を明示せず、㎡単価、m<sup>3</sup>単価等に含まれていることが多いが、実行予算の段階では作業員の人数、資機材の数量、現場経費等を明確にしておく。
- 4 実行予算の段階では、実際に注文したり手配したりする数量で算定するが、計画と実績の数量比較については、工程管理で行えばよい。

**問題 14 高い品質に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 多くの専門工事業者が分担して施工する建物の品質は、「品質は工程でつくり込む」という考えが重要である。
- 2 最終的な品質の高さは、品質の高い工程を積み上げることで実現できる。
- 3 建設物は社会的な資産として、多くの人々に長期間にわたって使用されるものだが、完成時に高い品質を持つだけで十分である。
- 4 発注者を始めとして、建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者間で品質の考え方の共有が必要である。

**問題 15 品質保証と ISO 9001 に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 専門工事業者においても、品質マネジメントシステムの国際規格である ISO 9001 の認証を受ける企業が多くなっている。
- 2 ISO とは、国際標準化機構のことで、製品や規格サービス等の国際的な規格の標準化によって、国際的な経済活動の活性化を目指している。
- 3 ISO 9001 は、製品の品質を担保、保証するシステムを事前に文書化して、それに対して自社内で認証を受け、それを消費者に開示する仕組みである。
- 4 登録基幹技能者には、ISO 9001 に関する文書の作成やそれを使いこなす知識も求められている。

**問題 16 建設業法に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 建設工事の請負契約の当事者は、各々対等な立場における合意に基づいて公正な契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行しなければならない。
- 2 建設工事の契約の締結に際して工事内容や請負代金の額などを書面に記載し、署名又は記名押印して相互に交付しなければならない。
- 3 注文者は自己の取引上の地位を利用して、その注文した建設工事を施工するために通常必要と認められる原価に満たない金額を請負代金の額とする請負契約を締結してはならない。
- 4 注文者は、その注文した建設工事を施工するために通常必要と認められる期間に比して著しく短い期間を工期とする請負契約としてはならないが、工期に影響を及ぼす事象に関してはその情報を提供する必要はない。

**問題 17 建設業法令遵守ガイドラインに関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 建設業の担い手を確保するために、処遇改善等を通じて建設業への若年層の入職を促進することが必要であり、政府一体となって元請下請間の取引適正化に取り組んでいる。
- 2 赤伝処理等による一方的な代金の差し引き等、下請負人へのしわ寄せによって技能労働者への適正な賃金水準が確保できなくなるなど、建設業が持続的な発展を遂げる上で阻害要因となっている。
- 3 「建設業法令遵守ガイドライン」は、元請下請間の関係に関して、どのような行為が建設業法に違反するかを具体的に示しているが、法律については元請・下請がそれぞれ十分理解することでしか解決できない。
- 4 「建設業法令遵守ガイドライン」は、元請負人と下請負人との対等な関係の構築及び公正かつ透明な取引の実現を図ることを目的としている。

問題 18 次の用語と説明についての組合せに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 充填モルタル：  
ALC パネルの欠損部の補修や座掘りによる ALC パネルの凹部などを埋め戻すための専用セメントモルタル
- 2 設計荷重：  
ALC パネルおよび取付け構法に要求される荷重
- 3 パネル有効厚さ：  
ALC パネル表面に模様または傾斜の意匠加工を施した意匠パネルの最も薄い部分の厚さ
- 4 かさ上げ鋼材：  
屋根用および床用 ALC パネルの接地面を確保するため、大梁の上などに設ける下地鋼材

問題 19 耐震性能に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 耐震性能は、慣性力に対する安全性能および変形追従性能で表す。
- 2 慣性力に対する安全性能は ALC パネルが脱落しないこととし、その性能は設計用水平震度で示す。
- 3 慣性力に対する安全性能の性能値は、特記の無い場合は、設計用水平震度  $K_{Hi}=2.0$  とする。
- 4 変形追従性能における安全性能の性能値は層間変形角で示し、特記の無い場合は  $1/150$  とする。

問題 20 横壁アンカー構法が適用される建築物として、最も不適当なものはどれか。

- 1 鉄骨造
- 2 ブロック造
- 3 鉄筋コンクリート造
- 4 鉄骨鉄筋コンクリート造

問題 21 間仕切壁用 ALC パネルの厚さごとの最大長さとして、最も不適当なものはどれか。

- 1 厚さ 75mm,80mm            最大長さ 4,000mm
- 2 厚さ 100mm                最大長さ 5,000mm
- 3 厚さ 120mm,125mm        最大長さ 6,000mm
- 4 厚さ 150mm                最大長さ 7,000mm

問題 22 外壁用 ALC パネルの支持方法に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 ALC パネルの支持方法は、原則として両端支持の単純梁とする。
- 2 横壁のパラペット部においては、ALC パネルの厚さの 6 倍以下の範囲であれば、ALC パネル幅方向にはね出して使用することができる。
- 3 縦壁および横壁の下がり壁においては、下がり壁部分に補強鋼材を設けて ALC パネルを支持する。
- 4 縦壁および横壁の下がり壁においては、ALC パネル最下部に補強鋼材を設けて ALC パネル重量を支持する。

問題 23 ALC パネル工事に関連する工事に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 木工事
- 2 設備工事
- 3 外構工事
- 4 外部仕上げ工事

問題 24 ALC パネルの揚重及び仮置きに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 ALC パネルの揚重は、ナイロンベルトなどの専用器具を用いて行う。
- 2 ALC パネルの揚重は、運搬荷姿 1 山ごとに行う。
- 3 ALC パネルの仮置き時の積上げ高さは、運搬荷姿 3 山程度とする。
- 4 床が ALC パネルの場合、直下に梁が位置する場所に仮置きする。

問題 25 ALC パネル工事に関して、設計者が必ず内容を定めなければならない特記事項として、最も不適切なものはどれか。

- 1 耐荷重性能
- 2 取付け構法の種類
- 3 ALC パネルの厚さ
- 4 溶接棒の種類